

教育研究所年報

第 32 号

2023

文教大学教育研究所

教育研究所年報 第32号

目 次

2022 年度 事業報告

事業報告	3
第 28 回「世界の教科書展 特集：マレーシアの教科書」	4
〈学外巡回展〉	
世界の教科書展：文教大学教育研究所コレクション	5
定例研究会	6
諸外国の教科書収集	8

2023 年度 事業計画

事業計画	10
------------	----

2022 年度 事業報告

<研究部>

研究部主任 山 川 智 子

1. 「世界の教科書展」の実施

第28回「世界の教科書展 特集：マレーシアの教科書」を、11月1日(火)～30日(水)にオンデマンド配信で開催。コーディネーターは、教育学部・当研究所所長の手嶋将博先生。感染症対策のため、2021年度と同様、教科書やパネルの実物展示は差し控え、パネル解説は教育研究所のHPで公開した。また、オンデマンド配信用として、以下の動画を大学HPで公開した。〈1〉「世界の教科書展」開催にあたり(山川智子)〈2〉特別講義「マレーシアの社会と文化」(手嶋将博)。学祭期間終了後は11月末日までの期間限定で、申請者に一般公開した。また、11月30日(水)～12月5日(月)に「OKEGAWA hon+」(桶川)でも同内容の「世界の教科書展」を解説パネル展示にて開催し、3(土)・4(日)には上記の動画を上映した。3(土)は公開講座「マレーシアの社会と文化」(講師：手嶋将博先生)も行った。

2. 『教育研究所年報』第31号の発刊

『教育研究所年報』第31号を5月に発刊した。2021年度事業報告として、第27回「世界の教科書展(オンライン特別編) 特集：教科書を通して見るアメリカの社会と教育、〈学外巡回展〉世界の教科書展：文教大学教育研究所コレクション、定例研究会、諸外国の教科書収集、2022年度事業計画を計11頁に掲載した。

3. 客員研究員の受け入れ

国内の学術機関(他大学を含む)から計10名の客員研究員を受け入れた。

4. 「定例研究会」の実施

2022年度は年2回、8月11日(木)と11月5日(土)に「定例研究会」をオンラインで実施した。(通算第100回・101回)

<研修部>

研修部主任 小 幡 肇

1. 『教育研究所紀要』第31号の発刊

2022年12月28日付で『教育研究所紀要』第31号発刊した。特集テーマは「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の実現による教育実践の可能性」とし、依頼論文2編を掲載。自由研究では、研究論文6編、実践研究1編、研究ノート2編、実践報告2編という内容であった。

2. 『教育研究所ニュース』の発刊

『教育研究所ニュース』第51号を11月に発刊した。巻頭言を「17年ぶりの『マレーシアの教科書展』開催にあたって」とし、世界の教科書展の報告、桶川市における世界の教科書巡回展と定例研究会のお知らせ、『文教大学の授業』の執筆者紹介を掲載した。

3. 『文教大学の授業』の発刊

第80号「情報活用能力の育成を目指した小学校算数科の模擬授業」(教育学部 清水邦彦先生)、第81号「福祉と教育を橋渡しする人材養成を目指して～『スクールソーシャルワーク論』の取り組みから～」(人間科学部 宮地さつき先生)、第82号「作曲を通して音楽を知る」(教育学部 橘晋太郎先生)、第83号「実際の事例に経営理論を語らせる」(経営学部 石塚浩先生)。

4. 教育研究所ホームページの運営・更新

前年度までと同様、教育研究所の各事業終了後は、速やかに研究所ホームページに掲載する情報の更新を行い、本研究所の事業活動を広く社会に発信することに努めた。

5. 新刊行物「学校のいま(仮)」の発刊

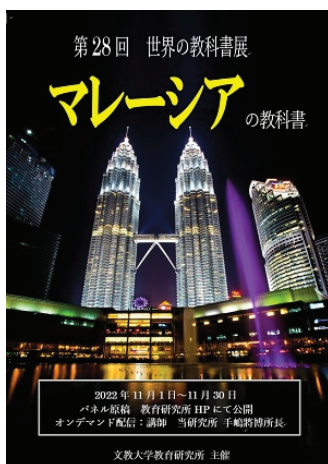
コロナ禍の影響、および発刊に向けた趣旨や依頼等に向けての準備が整わなかったため、次年度以降、引き続き準備を行っていく。教職希望の現役学生向けの刊行物として発刊準備を整える。

第28回「世界の教科書展 特集：マレーシアの教科書」

2022年11月1日(火)～30日(水) オンデマンド配信

研究部主任 山川 智子

実施概況



1994年度から開催している「世界の教科書展」は、教育研究所の特色ある取り組みのひとつである。1997年度の第4回の教科書展からは、越谷キャンパスの学園祭（藍蓼祭）で開催してきた。これまで多くの場合、ある地域を選び、その地域の初等教育に焦点を当て企画・運営を行ってきたが、研究所の方針により、複数の地域の、特定科目の教科書に焦点をあてた年もあった。主として初等教育の教科書を展示し、教育制度や教科書の内容を紹介している。来場者との意見交換の場として、教科書展は発展してきた。

2020年度は、コロナ禍により教科書展の開催をやむなく断念することになった。教育研究所の歴史と伝統を次の世代につなぐために試行錯誤を重ね、2021年度はオンライン（オンデマンド配信）で開催することができた。コロナ前の実施形態（教科書やパネルの展示、動画閲覧用のiPadの設置）と異なる形態での教科書展の開催に向け、研究所で時間をかけて協議した。その結果、教科書の実物展示は行わないこと、また、パネル原稿は教育研究所のHPで公開することとした。

2022年度も、教科書やパネルの実物展示は行わず、2021年度の形態を引き継ぐ形でオンデマンド配信した。本研究所所長の手嶋將博先生がコーディネーターをご担当くださり、「マレーシアの教科書」をテーマとし、以下のようなオンデマンド・レクチャーを作成し、学内で配信した。さらに申請者に向けて期間限定で一般公開した。

- I 「世界の教科書展」開催にあたり（山川智子）
- II 特別講義「マレーシアの社会と文化」（手嶋將博）
 - ① マレーシア教育制度の概略
 - ② 語学教科書編
 - ③ マレー語講座
 - ④ 各教科の概説
 - ⑤ 自然科学科目 教科書編
 - ⑥ 社会科学科目 教科書編
 - ⑦ 実技系科目等 教科書編

教育に関する研究を若い世代につないでいくために、学生アルバイトも重要な存在である。対面での教科書展の復活に向け、今後どのように学生たちに関わってもらいか検討していきたい。皆で作りに上げていくという教科書展の伝統を継承していくために、工夫を凝らしていきたい。

世界の教科書展：文教大学教育研究所コレクション

ー特集 マレーシアの教科書ー

日時：2022年11月30日（水）～12月5日（月）

会場：「OKEGAWA hon+」（桶川駅西口駅前桶川マイン3階）

共催：丸善雄松堂株式会社

研究部主任 山 川 智 子

実施概況

教育研究所は「教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献」を目的とし、学内外の研究者の協力のもとに様々な研究に取り組んでいる。なかでも、越谷キャンパス学園祭（藍蓼祭）で開催される「世界の教科書展」は、教育研究所の特色あるイベントのひとつとなっている。1994年度からはじまり、1997年から藍蓼祭に参加する形で開催している。2020年度はコロナ禍で開催を見送り、2021年度、2022年度はオンラインで開催した。

研究成果を地域の方たちに還元すべく、2016年度からは、桶川市、丸善雄松堂株式会社（教育・環境ソリューション事業部）、文教大学の三者共催で学外巡回展を行っている。こちらも2020年度は開催を見送ったが、2021年度に第5回目の開催をオンラインで実現することができた。期間中は、教科書の実物展示はせず、パネル展示とモニター上映を行い、マレーシアの社会と教育の一端を紹介した。

パネル展示は開催期間を通して、モニター上映は期間中の週末にあたる、12月3日（土）・4日（日）に行った（10時～16時）。藍蓼祭で公開した以下の内容である。

I 「世界の教科書展」開催にあたり（山川智子）

II 特別講義「マレーシアの社会と文化」（手嶋將博）

- ①マレーシア教育制度の概略 ②語学教科書編 ③マレー語講座 ④各教科の概説
⑤自然科学科目 教科書編 ⑥社会科学科目 教科書編 ⑦実技系科目等 教科書編

12月3日（土）は、本研究所所長の手嶋將博先生による公開講座「マレーシアの社会と文化」が開催された。大学と地域とで連携することで情報共有を可能にし、ともに教育を考えていく時代となった。そのため、この教科書展が、地域の方たちに教育研究所の活動を紹介する機会となればと願っている。

教育研究所では世界各地の教科書を収集し、保管してきた。2017年度には、モラロジー研究所から教科書の寄贈を受けた。およそ30か国・地域の教科書を保有し、その数は約1万冊に達する。世界の教科書を収集し、保管するという地道な活動を行っている研究機関は国内でも珍しく、近年はメディア関係者や他の研究機関からの問い合わせも増え、また、一般の方たちからも連絡をいただくようになった。今後、このような貴重な資料をどのように活用し、どのような形で公開していくかに関しては試行錯誤の連続であるが、「教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献を果たす」という教育研究所の理念に向けて精進を重ねていきたい。



定例研究会

教育研究所所長 手嶋 将博

本年度の定例研究会は、2022年8月11日(木)と11月5日(土)の2回、オンラインで開催した。第100・101回となる定例研究会の報告題目と発表者は以下の通りである。

「ビブリオバトルの多様な実践の在り方について」(彰栄保育福祉専門学校:綾 牧子)、「社会教育・生涯学習における防災の学び方についての一考察」(台東区教育委員会:阪本 陽子)、「公立小中学校における性別違和をもつ児童生徒への対応に関する研究」(栃木県小山市立羽川西小学校:松嶋 淑恵)、「就学前教育と小学校教育とのカリキュラム接続の研究」(元旭川大学女子短期大学部:梨子 千代美)、「教員が学び続けるための環境—東京都立高等学校を中心に—」(一般社団法人子どもの成長と環境を考える会:塚原 元気)、「豊かななかわり合いの中で、今と未来に生きる—体育科を中心に児童の自尊感情を高める指導の在り方を探る—」(川越市立川越小学校:清水 香保里)、「ICT機器を活用したリモートによる異文化交流実践に関わる研究」(NPO 法人地球対話ラボ:中川 真規子)、「基礎教育の保障の課題—研究倫理及び、インターネットリテラシー等の調査研究—」(中央大学通信教育部:矢作 由美子)、「家庭科消費分野における意思決定の変化に関する研究—『エシカル消費』をテーマとした授業実践を通して—」(越谷市立荻島小学校:木場 雪香)、「外国につながる児童生徒の教育支援—SNSを活用した教職員および児童生徒の保護者への情報提供を通して—」(東京都北区立西ヶ原小学校:辻 菜津美)。

本研究が定期的に開催する定例研究会は、本学の教職員、学部生、大学院生をはじめ、本学を卒業・修了したOB・OGや現役の教員など、学内外を問わず誰でも参加、聴講、質疑応答ができる場であり、教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献を果たすとともに、教育・教育現場をめぐるさまざまな状況の変化に応じて、常に新しい情報や知見を発信していくことを目的として行われている。



オンラインでの定例研究会の様子

2022年度定例研究会発表要旨

<第100回 2022/8/11(木)>

ビブリオバトルの多様な実践の在り方について

綾 牧子

保育者養成課程におけるビブリオバトルの実践について、コミュニケーション機能の視点から検討した。事前に学生からコミュニケーション機能が活性化するためのアイデアを募り、授業実践に活かした。事後アンケートの結果、ビブリオバトルを通して「他者とつながりたい」という意識がうかがえた。また、自己開示に対する緊張感を軽減するための場の配慮が必要であること、テーマを設定すると授業の目的が明確になり、学生のモチベーションが上がる傾向があることが示唆された。

社会教育・生涯学習における防災の学び方についての一考察

阪本 陽子

「防災教育」の定義や体系化は難しく、現状では学校教育課程内の視点が中心であり、地域社会を含んだ総合的な教育設計にはなり得ていない。社会教育・生涯学習における防災の学び方の視点には、以下3点が重要と考える。①「人づくり」「地域づくり」と「防災」の親和性を利用した取り組みとすること。②従来の防災教育のコンテンツの外側に置かれてしまう「地域活動」のスキルを扱うこと。③カリキュラムによる学習シークエンス構築よりも実践共同体への正統的周辺参加が有効であること。

公立小中学校における性別違和をもつ児童生徒への対応に関する研究

松嶋 淑恵

公立小中学校における性別違和をもつ児童生徒への対応に関して、特に組織的な対応を行うための課題点に着目して先行研究を概観した。その結果、教職養成課程で性の多様性やセクシュアリティについて学んだ者が少なかったり、教職員間の意識の差があったりすることから、相談を受けた教職員が独自に、時には単独で個別に対処していることがわかった。また、小学校と中学校の校種による違いも見られた。意識や校種の違いを踏まえて、組織対応に繋げる要素の研究を進めていきたい。

就学前教育と小学校教育とのカリキュラム接続の研究

梨子 千代美

わが国では、複数の種類の保育施設が存在し、子どもは、それらから小学校へ移行する。この移行期に子どもの発達や学習の質を保障するためには、連続的な発達や学びが目指されなければならない、カリキュラムは重要な核となる。そこで、保育から小学校教育への移行期カリキュラムはどうあるべきかを明らかにするため、本研究期間では、第二次世界大戦前のわが国の保育政策の歴史的な展開過程に焦点をあて、保育と小学校教育との関わりの特徴と歴史的、制度的な課題について明らかにした。

教員が学び続けるための環境

—東京都立高等学校を中心に—

塚原 元気

教員が学び続けるためには、教員が「問う」契機となる気付きの場が必要である。埼玉県立 S 高校の教員研修で哲学対話を導入したところ、「他の教員や生徒の気持ちに気付いた」という感想が多くあり、哲学対話が教員の気付きの場として一定の効果があることがわかった。研修後、哲学対話を中心とした取り組みが主体的に行われるようになったことから、哲学対話での気付きから新たな問いへと展開され、学び続ける環境が整ったと言える。問う契機さえあれば、学校も教員も学び続けるのだ。

<第 101 回 2022/11/5 (土) >**豊かななかかわりあいの中で、今と未来にいきる**

—体育科を中心に児童の自尊感情を高める指導の在り方を探る—

清水 香保里

令和 2 年度（2020 年）から取り組んでいる、児童の自尊感情向上に向けての学校研究である。3 年目の今年度は、体育科の実践を通して、自尊感情の向上と体育の技能及び体力の向上を目指し、その手立てを検討してきた。その結果、形成的授業評価の検証ができ、話し合いを通じた思考活動、教具の作成、場の工夫などの取組で、授業に面白みや取り組み易さを感じられてきた。また、チームへの所属感、チームのために頑張る気持ちなど自己有用感が高まってきたと感じられた。

ICT 機器を活用したリモートによる異文化交流実践に関わる研究

中川 真規子

日本とインドネシアの若者によるリモートでの国際協働プロジェクトの実践報告を行った。コロナ禍で移動や社会参画の機会が減った若者たちが、日本の小学生向けにリモートで文化紹介ワークショップを実施するというプロジェクトである。ワークショップの準備も全てリモートで実施をした。

リモートでの活動に協働的な活動を埋め込むことで、対話の機会が増え、異文化間での協働に何が必要なのかを考えるきっかけとなることが参加した若者のふりかえりなどから浮かび上がった。

基礎教育の保障の課題

—研究倫理及び、インターネットリテラシー等の調査研究—

矢作 由美子

未成年者を対象とする研究で、「人を対象とする研究倫理規程」の影響に関するアンケート調査を実施した。考察として倫理規程の厳格な同意規程については、研究者の義務、参加者の権利、参加者の利益、参加者が被る不利益の間には、相対立する利益がある事が分かった。その為、研究調査を断念せざるを得なかった研究者が相当数いた。その結果から保護者の同意は重要ではあるが、やむを得ず保護者の同意を経ずに行う例外規定の検討や、所属機関や学会に相談窓口の設置などが必要といえる。

家庭科消費分野における意思決定の変化に関する研究

—「エシカル消費」をテーマとした授業実践を通して—

木場 雪香

昨年度の研究のワークシートから、①映画の予告は、受講者の印象に残りやすい。②意思決定能力や意思決定の再検討に関する記述が受講者側から出てきた。③今回の模擬授業の課題設定、状況設定、実施回数では、エシカルの視点が獲得することが難しい受講者もいた。また、質問紙調査と先行研究より、消費の個人志向性価値意識が下がった原因として、発達や性別の偏り、課題設定が示唆された。以上から、個人志向性価値意識と授業内容の持続性を重視した食領域の授業開発を行った。

外国につながる児童生徒の教育支援

—SNS を活用した教職員および児童生徒の保護者への情報提供を通して—

辻 菜津美

文科省等の最新の外国人児童生徒に関するデータをまとめ直し、外国人児童生徒への支援に関する問題を可視化した。また、自治体や学校による日本語支援の体制には大きな差があることもわかった。実際に公立の小学校に勤務する教員へのインタビューを行い、言葉や文化の違いから学校の意図やルールが伝わらないことや、日本語指導教室への繋げ方など具体的な課題が挙げられた。現在インタビューをもとに、教職員及び外国人児童生徒の保護者への情報をまとめた動画の作成を行っている。

諸外国の教科書収集

教育研究所では、設立当初より海外の教科書を収集してきた。収集した教科書は「世界の教科書展」に展示し、近年はマスコミからの問い合わせや取材依頼も多い。2022年度は、エジプトの教科書 45 冊、イタリアの教科書の教科書 127 冊収集した。

1. 初等学校（計 28 カ国 2,302 冊）

（2023 年 3 月 31 日現在）

教科 国	国語	社会	算数	理科	生活科	総合科	音楽	美術	体育・健康	実科	英語	日本語	道徳・宗教	情報	国際理解	その他	計 (冊)
アメリカ	42	16	46	8		5										3	120
イギリス	20	12	8	12										10			62
イタリア	30	16	16	7		7		3			18		7			23	127
インド	141		5			10			7				9	15			187
インドネシア	6	12	6	6				6	2		6		6			6	56
エジプト	19	9	10	6	20						16		20				100
オーストラリア	60	7	23	18				6	10	6		3	3		1	7	144
オランダ	2	3	6	6							1					2	20
韓国	26	14	23	16	10		4	4	8	2	6		10			8	131
ケニア				3													3
シンガポール			23	13					6		5						47
スイス	2		1														3
スペイン	6	4	6	6		4					6		7	2		1	42
スリランカ	7		5								6		6				24
タイ	12	6	7	6	1	1		2	6	6	6					6	59
台湾	21	14	22	14	6	20		22	21		20						160
中国	10	11	16	15			6	5			44		6			1	114
ドイツ	8		11		20	4	2	3			17		3				68
トルコ	22	19	18	16							18		19			22	134
バングラディシュ	5		3								1					3	12
フィンランド	28	7	26	18							13						92
ブラジル	10	9	9	9				5			5		11			6	64
フランス		10	7								20						37
ベトナム	14	4	8	6	2		5	5	3	2			4			2	55
ポーランド	1		1	1													3
マレーシア	36	6	33	22	7		3	5	15	3	33		24	3		15	205
ラオス	10		10		10			5	5		6					5	51
ロシア	51	1	27	3	26		4	9	4	11	36			7		3	182
計	589	180	376	211	102	51	24	80	87	30	283	3	135	37	1	113	2,302

2. 中等学校(前期・後期) (計 15 カ国 711 冊)

(2023 年 3 月 31 日現在)

国	教科	国語	社会	歴史	地理	公民	数学	科学	生物	化学	物理	音楽・美術	体育	家政・技術	外国語	道徳・宗教	情報	その他	計(冊)
アメリカ			1	1	1					2								1	6
イギリス		8	8	3	3	2	4	6	1	1	1	2			2		2		43
インドネシア		3	3			3	3	3							3	3		3	24
韓国		5	2	2			3	3				4	2	3	5	2		3	34
シンガポール				3	7		3		1	4	2			2	4				26
スペイン		5		2	3	1	5	2	1		2	1	4	3		4			33
タイ		8	4				10	5				2	2	6				3	40
台湾		9	18	3	3	3	10	17	1			6	6		12			6	94
中国		9		16	8		10		6	5	7	8			11			1	81
ドイツ		3	2	31	9		8	2	3	2	2	5		1	8		2		78
ネパール							1	1							1				3
フィンランド		3	4	3	3		6		5	1	1	4	1	1	6	1		1	40
フランス		3		2	1		2								20				28
ラオス		14		7	7	7	8		3	3	3		1	8	18			15	94
ロシア		15	6	9	4		8		4	4	3	10	3	2	5	6	2	6	87
計		85	48	82	49	16	81	39	25	22	21	42	19	26	95	16	6	39	711

3. 公益財団法人モラロジー研究所からの受贈コレクション (計 18 カ国 7249 冊)

2017 年、公益財団法人モラロジー研究所の施設建て替えにともない、18 カ国 7249 冊にも及ぶ教科書の寄贈を受けた。諸外国の教科書は、以下のとおりである。

国名	受贈冊数	国名	受贈冊数
アメリカ	1489 冊	ドイツ	760 冊
イギリス	735 冊	旧東ドイツ	48 冊
イタリア	497 冊	旧西ドイツ	256 冊
カナダ	266 冊	ロシア	39 冊
スウェーデン	81 冊	旧ソ連	280 冊
スイス	150 冊	韓国	549 冊
スペイン	150 冊	中国	832 冊
フィンランド	97 冊	香港	236 冊
フランス	616 冊	台湾	168 冊

2023 年度 事業計画

<研究部>

研究部主任 山 川 智 子

1. 「世界の教科書展」の実施

海外の教育事情を紹介し日本の教育を考える目的で1994年から実施してきた教科書展であり、2023年度は、越谷キャンパス学園祭（藍蓼祭）での対面開催を目指す。オンライン開催となったアメリカ（2021年度）、およびマレーシア（2022年度）の教科書・パネルの現物展示、さらに動画配信を行う。2016年度から続く学外展示として、「OKEGAWA hon+」（桶川）でも「世界の教科書展」を開催予定。実施方法は、藍蓼祭の形態に準ずる。（いずれも、感染症の状況及びその対策等をふまえ検討していく。）

2. 『教育研究所年報』第32号の発刊

2023年5月に発刊（本誌）。世界の教科書展、定例研究会の報告など、前年度の活動報告および今年度活動計画を中心に掲載（全11頁）。

3. 客員研究員の受け入れ

国内の学術機関（他大学を含む）から11名の申請者があり、受け入れを承認した。

4. 「定例研究会」の実施

2023年度は年2回（8月、11月・通算第102、103回）を実施予定。開催方法は感染症等の状況をふまえて検討。

5. 海外の教科書データベースのデジタル管理化

収集した海外の教科書データベースのデジタル化を進め、各国・校種・学年の教科書の表紙画像を加える等、より検索しやすく整理・アップグレードして管理を実施していく。

<研修部>

研修部主任 小 幡 肇

1. 『教育研究所紀要』第32号の発刊

『教育研究所紀要』第32号の特集テーマは4月の研究所会議にて正式決定し、5月中旬に、特集テーマに関する論文の依頼、および投稿論文等の募集を開始。原稿の締め切りは9月下旬で、2023年12月に発刊予定。

2. 『教育研究所ニュース』52号の発刊

本研究所の事業の進捗状況や活動の報告を中心に、学内外にそれを知らしめていく広報誌としての役割を担う本誌は、5月に『教育研究所年報』が出る関係から、2018年度より年1回の発刊となり、2023年11月に発刊予定。

3. 『文教大学の授業』84、85、86、87号の発刊

引き続き、文教大学の教員の授業を学内外に紹介していく。2023年度は、2023年度は、文学部 ラメイ・アレック先生（5月・第84号）、教育学部 久保村里正先生（7月・第85号）、国際学部 海津ゆりえ先生（10月・第86号）、人間科学部 金藤ふゆ子先生（1月・第87号）に執筆いただく予定。

4. 教育研究所ホームページの運営・更新

各コンテンツの整備と発信内容の精査、積極的な情報発信に力を入れていく。

5. 新刊行物「いま学校は（仮）」の発刊

2022年度、コロナ禍の影響、および発刊に向けた趣旨や依頼等に向けての準備が整わなかったため、引き続き準備を行っていく。内容としては、本校卒業生の現職教員に、新学習指導要領・GIGA スクール構想・コロナ禍への対応など、下内の学校教育の様子を紹介してもらう刊行物「学校のいま（仮題）」（A4リーフレット・年1回発刊の予定）の準備を行う。

2022 年度

所 長	手嶋 將博		
研究部主任	山川 智子		
研修部主任	小幡 肇		
事 務	河口 恭子		
客員研究員	綾 牧子	阪本 陽子	清水香保理
	中川真規子	矢作由美子	木場 雪香
	松嶋 淑恵	梨子千代美	辻 菜津美
	塚原 元気		

2023 年度

所 長	手嶋 將博		
研究部主任	山川 智子		
研修部主任	小幡 肇		
事 務	河口 恭子		
客員研究員	綾 牧子	阪本 陽子	清水香保理
	中川真規子	矢作由美子	木場 雪香
	松嶋 淑恵	梨子千代美	塚原 元気
	大西 健介	大石 海	

教育研究所年報 第 32 号

発行日 2023 年 5 月 4 日

発行者 文教大学教育研究所
〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島 3337
電話 048-974-8811

印刷 有限会社 カワカミ印刷
電話 048-976-0007
